

コヴェントリー Ⅱ サイクル劇

XIX

橋 本 侃

第二十七番演目「最後の晚餐」

写本百四十六頁

(1)

イエス おお、エルサレムよ、神の定めは痛ましい！

その大迫害の日には、

痛ましい悲嘆とともに、汝は破壊され、

その栄華は混乱に至るはずだ。

都に住むあなたたちは

産まれた時を呪うはず――

あまりにも大きな不運と悲しみが

朝も夕も四六時中、市民たちの身に降りかかるであろう。

(2)

子供のいる者たちが直ぐさま悲しみの声をあげ、

「なんと悲しいことだ——これはなんの意味だ」と言う。

食べ物も飲み物も突然に足りなくなり、

神の復讐を目にする。

その時が近づいている——悲しみがおこり、

混乱と大きな嘆きの日が来る。

寺院も搭もすつかり崩れ落ちてしまう。

おお、エルサレムよ、汝の定めは痛ましい！

(3)

ペテロ 主よ、どこで過ぎ越しの膳を囲みますか？

お願いです、お教え下さい——

そうすれば、用意が整えられます。

誰にも邪魔されずにお給仕できます。

ヨハネ 主よ、あなたのご出立にそなえ、

従順そのものでお仕えしましょう——

あなたのために、すべてをご用意してしましょう、

どのような場所にわたしたちをお遣わしになっても。

(4)

イエス 皆にはシオンへ行ってもらいたい。

行けば、こざっぱりした衣服を着た貧しい人が、

水を運んで通りを行くのに出会うだろう。

その人にわたしが来ると伝えなさい。

優しく声をかけなさい——

その人の家にわたしがゆく、と。

その人は断わりごとは言わず、

思いどおりのことを黙ってさせてくれるだろう。

(5)

ペテロ 主よ、お望みどおりにいたします、

その場所を捜しに、急いでまいります。

ヨハネ できるだけ急いでゆきます——

ご命令を必ず果たします。

〔ここで、ペテロとヨハネは水の入った缶を運ぶハンセン病のシモンに出会う。〕

(6)

ペテロ 善き人よ！ わたしたちの主である預言者のイエス様が

今夜はあなたの家の大広間でお休みになられます。

ご伝言を託してわたしたちをここへよこされました――

主の食卓を調べてください。

主と弟子たちが皆で

過ぎ越しの膳を囲むので、

手に入るのならどんな羊でも生け贄として用意してください。

主はあなたと過ぎ越しの膳をご一緒したいのです。

(7)

シモン なんですって！ 主がわたしの所をお訪ねになるんですって！

百四十七

訪れられるその時が祝せられますように！

ほんの数刻あれば、調べましょう、

わたしの善い主を心からお迎えするため。

みなさん、先ずはお入りになって、

お出しする食べ物を、とくとご覧ください。

わたしにはこのお報せがとても嬉しく、

これから味わう喜びがどんなものになるのか想像もつきません！

〔ここで、弟子たちはシモンと一緒に家に入り、神が定めたキリストの到来を目にする。〕

(8)

イエス この道は聖霊が定めた玉髄であり、

わたしたちをしかるべき所へ導いてくれるはずだ。

わたしを愛してやまない友たちのおかげで、

食料の調達がすんだのですね。

さあ、わたしたちは前に進もう、平和のうちに歩き続けよう。

人を愛するために、わたしはこの道を行く。

聖霊の目で見ると、わたしには確かに分かる、

人が人のために最期の時を迎えねばならないことが。

〔ここで、弟子たちはキリストのもとに集まる。〕

ペテロ 主よ、わたしたちの定めは調いました。

あなたにとって喜ばしい定めとなりますように！

シモンがお求めに応じて調えました――

あなたがいらっしやることを大変に喜んでいました。

(9)

ヨハネ 主よ、ここにあるものはすべて、あなたに喜んでいただきたいものばかりです。

過ぎ越しのお膳を楽しく囲むためのものです。

あなたがいらつしやると聞いた時、

シモンは大きな喜びを体全体で表しました。

〔ここで、シモンが家から出てきてキリストを迎える。〕

(10)

左百四十七頁

シモン 恵み豊かな主よ、ようこそいらつしやいました！

神であり人間でもあるあなたをあがめます。

ご覧のように、わたしの貧しい家は

わたしと同様に、あなたの僕であること承知しています。

(11)

イエス 喜びという喜びがあなたに溢れていますね。

シモン、あなたの本当の気持ちに分かります。

あなたに天の喜びを取り戻させてあげよう、

そのむくいをあなたに進呈しよう。

〔ここで、キリストは弟子たちとシモンの家に入り、生け贄の羊を食べる。その合間に、場面が突然に変わり、議場が現われる。主教、聖職者、ユダヤ人たちが居並び、会議が進行中の様子である。〕

「ユダヤ人たちの陰謀」

(1)

アナス 見ろ！ われわれがしていることはみんな無だ！

すべての物事についてなどわれわれに予言はできぬ。

どれだけの数の人民が奴のもとに引き寄せられているか、お前たちにわかるか——
奴の起こした奇跡のせいだ！

(2)

何か巧みな仕掛けを他に捜さなくてはならない——

奴をこのまま放っておくことは、どうしてもできない！

ならば、この議論を抜け目ない結論へと導いて行かねばならない。
さもないと、ローマ人たちがわれわれに災いをもたらすだろう。

(3)

ローマ人たちは、われわれの財産を取り上げ、罪を咎め、

人民のすべてを思うがままに牢獄へ引き立てることになるだろう、

もし、奴一人の言うことを人民のすべてが信じるならば、だ。

それゆえ、いとこよ、お願いだ、最善の策を口にしてくれ。

カヤパ 皆の者、これから言うことに注意を向けよ。

百四十八頁(410)

われわれ全部にとって都合がいいのは

すべての人民の代わりに一人の男に死んでもらえることだ——
人民のすべてが非業の最期を遂げて滅び去るよりはずっといい。

(4)

それゆえ、後悔しないように賢く事を進めよう。

してもいない偽りの行為を奴の仕業にする必要がある。

個人的には、奴を火炙りにしてやりたい、

われわれみんなが道を迷わされるくらいなら。

それゆえ、奴と組んでいる人間なら誰にでも金の不自由をさせないように、

可能なかぎり巧妙に、すべてを偽り事にさせてしまおうのだ。

さあ、この中の誰が、最善の進言をしてくれるか見てみたい——

420

この男の破滅を定めるためだ。

(5)

ガマリエル もうこれ以上ぐずぐずせずに、

手早くイエスを捕まえましょう。

追隨者たちをみんな混乱させ、

415

牢屋にぶち込み、

長持ちする鉄の足鎖を掛けてやりましょう――

奴が正義に対する悪行を重ねているからです。

その後で、われわれは

奴を大いに軽蔑してやってから、急いで死刑の判決を下すのです。

(6)

リュウヴァン 奴がわれわれの法律を侵害しているので、

それが一番の判決であると思えます。

奴を荒れ馬で刑場へ引きずってゆき、

その後で、火炙りにしてやりましょう。

(7)

リヨン 皆さん、奴の一言をわたしも聞いています――

「わたしはユダヤ人すべての王だ」と言っていました。

この言葉だけでも奴に死んでもらうに十分だ。

ローマ皇帝への反逆のかどで訴え出なくてはならない。

(8)

わたしの知っている者たちに奴はこうも言っていました――

「エルサレムの大寺院を破壊すべきだ、必ず、破壊できる。」

そして、三日目に再建してみせる」と。

(9)

人々は強要されたのです、

奴がしたすべての仕事を信用するように。

奴が言うには、「天国において、わたしが支配する」そうです。

神であり人間でもあると自称しています。

リュウヴァン 今日の日をかけて、考えるべきです、

イエスにどのような恥ずかしい死に目にあわせてやるかを。

しかし、奴には悪さをあまりしかけられない――

われわれの掟の尊厳を損なわないためにも。

(10)

リヨン 奴を絞首門に吊るしましょう。

この判決が穏当であると思われませぬ――

国中の人間に奴を注目させ、

反逆の大罪に気を向けさせなくてはなりません。

(11)

リュウヴァン しかし、皆さん、一つのことには注意しなくてはなりません。

つまり、巧妙な手を見つけないではなりません。

いかなる手段を使うのであれ、奴に近づくことが肝要です——

奴には、今この時にも、たくさんの追隨者がいるからです。

(12)

アンナス 皆の者、その件についての忠言がぜひとも必要だ。

解散する前に、意見の一致を見なくてはならない。

どのようにしたら、奴をわれわれの意向どおりに捕まえられるのか——

それについて、なんらかの方策を見つけないではならない。〔場面が変わる。〕

(1)

マグダラのマリア わたしという女は呪われた者として、

悲しみにすっかり閉じ込められ、

また、淫らな恥知らずとして、嘆きにすっかり包み込まれている。

今までに神の恵みが少しも与えられない女は一人としていなかった——

今こうして歩いているわたしのような女は。

百四十九(〇帖)

悲しい、悲しい、わたしは破滅するのだ、
 今までに犯してきた大罪のせいだ。

わたしの主である神がいくらかでも斟酌してくれて、

大きな愛によってわたしを迎え入れてくれるのでなければ！

マグダラのマリアというのがわたしの名前です。

さあ、キリスト・イエスのもとへゆこう。

あの方は、すべての徳の主であるから、

急いで、ほんの少しの愛でもいいから求めにゆこう——

この身がひどく恥ずかしい。

(2)

ああ、主よ、愛をお与えください、わたしを罪から救ってください。

あなたは血の物をわたしから洗い落として自由にしてくださいます。

男が血族にいる女で

こんなにも罪にまみれた女はどここの国にもいなかった。

森でも沼地でも至る所で、身を汚されてきた。

そして、多くの町で罪を求めた。

しかし、主よ、わたしを救ってください——わたしは火炙りなる！

真つ黒な悪霊たちと永遠に一緒にいる定めなのです。

それゆえ、愛の王よ、

ここにある、とても香りのいい油を

あなたの聖なる足にぬらせてください。

そして、主よ、わたしに罪の贖いをいくらかでもさせてください、

わたしの過ちに愛をください！

(3)

イエス 女よ、泣きたい気持ちがあるのだから

神は救いのいくばくかをお前に与えてくれよう。

あなたを救うためにする偉大な業がわたしにはある。

なぜなら、悲しむ心があればこそ罪を償うことができるからだ。

あなたのすべての祈りを実現させてあげよう。

あなたの善い心だけに気を配り、

邪まな大罪から救ってあげよう。

そして、七つの悪魔からあなたを守ってあげよう。

さあ、ご覧、悪霊たちがあなたから逃げ出すぞ――

悪霊ども、お前たちに命じる、

この女の体から逃げ出せ！

わたしの恵みのうちに、いつまでも花と咲くのだ、
あの女を死が命を失わせるまで。

(4)

マリア 主よ、このような大きな恵みに感謝します。

今や、七匹の悪魔はわたしから逃げ出してしまいました。

これからは逸脱した行為と罪過に踏み込むことは決していたしません——

ことばやおこない、思いにおいても、また、それを罪と知りつつも。

左百四十九

いまはもう、悪霊の囲みから外に出され、

505

あなたの大きな愛の中にしっかりと閉じ込められました。

罪の道に二度と戻りません——

その道はわたしを地獄の穴に導き落とすはずだった！

このように膝をつき、あなたを崇めます。

ここにあなたを捜し当てることができた時が祝せられますように！

510

そして、ここまで持ってきたこの塗り薬によって、

今が今、わたしの心はきれいに洗われた、

最初は心労に取り付かれていた考えから。

(5)

ユダ 主よ、わたしにはあなたが本当に悪い事をしたと思われず、

そんなに油を撒き散らさせるなんて！

それを売っていれば、もっと道理にかなった行いだっただでしょうに、

貧しい人たちに食べ物を買ってやれましたのに！

その入れ物の方もいい値がついたはずです、

びったり三百ペンスはしたでしょう——

たくさんの食べ物を買えたはずです、

わたしたちの貧しい親族を食わせてやれましたのに！

(6)

イエス その貧しい人たちは待っていてくれるだろう。

お前はこの女性に向かって悪口を言っている。

ここでわたしはしばらく時を過ごそう——

この女性の嘆きの歌は愛についてだ。

〔ここで、キリストは休憩し、少し物を食べる。座ったまま、弟子たちとマリアに語り

525

かける。〕

(7)

520

515

心から残念に思っていることがあるが、それは不思議なことでもなんでもない。

間違いを一つも犯していないのに、わたしは死へ赴く。

それにもかかわらず、わたしが心をひどく痛めているのは、このことだ——
わたしの兄弟の一人が善からぬことで脅しをかけるだろう。

ここに座っているあなたたちの一人がわたしを裏切ろうとしている。

あなたたちの一人がわたしの死を懸命になって図ろうとしている、

わたしが一度として罪の場所にいたことがないというのに。

それゆえ、わたしの死はひどく恥ずかしいものとして用意されている。

(8)

ペテロ わたしの愛しい主よ、お願いです、本当のことを言ってください、

わたしたちの誰がそのような裏切りを行うのですか。

どんな裏切り者が自分の主を売り渡そうとしているのですか、

主よ、こんなに悲しい目にあわせている、そ奴の名をはっきり口にしてください！

ヨハネ 売り渡すような者がいるとしたら、

善い師よ、わたしたちにそいつの名前をあからさまに告げてください。

あなたのもとから去って行くのはどんな裏切り者なのでしょうか！

そいつは悪辣な裏切りをすることで、大きな恥をかくことになるでしょう。

(9)

アンドレア そのような裏切りを考え付くなどとは、本当に恐ろしいことだ！

さらにもっと恐ろしいことは、そのような悪い行いを実行に移すことだ。

そんな悪辣な裏切りをすれば、そいつは地獄へまっ逆さまに落ちて行くだろう、
終わりのない痛みのうちで、大きな災いの日々を送るだろう！

大ヤコブ 主よ、それはわたしではありません——

人に疑いをかけるのがわたしには怖い。

そのような罪を犯そうなどという考えなど、わたしの頭には少しも浮かばなかった。
もしも、このわたしがあなたに血を流させるために、あなたを売り渡すとなれば、
そのような裏切りをすることで、わたしの魂は破滅することになるでしょう。

(10)

マタイ 愛しい主よ、ああ、悲しいことに、

誰がそんなにも狂ってしまったのか、

左百五十(550)

金貨銀貨のために自分自身を殺してしまうとは！

金貨や物欲のために、あなたを売り渡すような奴は

自分の大きな貪欲さのために自分をも殺すことになるのだ。

バーソロミユウ そんな邪悪な考えを持つ奴が誰であれ、

わたしたちと共にいる愛しい主よ、そいつの名前をすっかり吐き出してください。
 そんな行いを実行しようとして、自分の利益にだけ専念する奴は
 大きな過ちのせいで、魂は迷いに迷うに違いない。

(11)

フィリポ 金貨や銀貨や宝は直ぐに消えてなくなるものだが、

あなたの恵みは終わりなく永遠に続くのです。

あなたを金と引きかえるような奴の、

自分の主を売り渡すような奴の、罪は非常に重い。

小ヤコブ そのような恐ろしい脅かしをするような裏切り者は

体も魂も失ってしまうと考えられます。

主のお顔から遙か離れて地獄に落とされ、

悪辣な悪霊と一緒に混じって、苦しみに身もだえする定めだ。

(12)

シモン そんな裏切り者は、なんと商売の下手な商人なのだろう！

とどのつまりは、その金のせいで、嘆き悲しむに違いない。

悲しいことだ、恵みの王を売り渡すのにどんな理由があるのか！

そ奴が金銭を獲得すれば、その悪辣さのせいで、悪魔が取り付くだろう。

トマス 奴の悪辣な裏切りのせいで、真っ黒な悪霊たちが

奴の魂を地獄の穴底へ深々と運んでいくだろう。

気の休まることなど全然なく、眠ることなどできず、

牢獄に閉じ込められ、灼熱の焰に焼かれるのだ。

(13)

タダイ そ奴が誰なのか分からないが、本当に不思議に思う——

わたしたち兄弟全部の中に混じって、このような罪を犯すのは誰だ！

悲しいことだ！ 恵みなどなにもなく、自滅したのだ。

百五十一

575

自分の魂を深い地獄の土牢の中で苦しむままにさせるのだ。

イエス わたしが食べる食べ物を食べることから、その男の過ちは始まったのだ。

その恐ろしい仕業のせいで、悲嘆がその男を襲うだろう、

せっかく、豊かな物を手に入れたのに、残念に思うに違いない。

580

そして、そのような罪深い行いのせいで、産まれて来なければ良かったと願うに違いない。

(14)

ユダ あなたたちと同じようにわたしも真実を知りたいと思っています。

それゆえ、善き人よ、わたしに真実を言ってください、

その裏切り者というのはわれわれ全部のうちのどの男なのかを。

あなたを売り渡そうとしているのは、このわたしですか？

イエス お前はどのように言うのか——言う言葉には注意しなさい。

お前がそのような裏切りをするかどうかを、いま、この場でわたしに尋ねるのか？

忘れるな、よく自分に尋ねてみることだ。

お前は分別ある歳をしているのだから、何が穏当であるかを知っていよう。

〔ここで、ユダはこっそりと立つ。すると、場面が変わる。写本残余の百五十一頁と左百五十一頁は白紙。〕

(1)

ユダ さあて、内緒の裏切りをしてやろうとしてきたが……

百五十二(P帖) 590

それは俺の先生の力を無しにするためだ。

俺様ユダは、ちよつとした理由からやってみようと思っている、

奴をユダヤ人たちに売り渡すのだ。

奴の身柄と引き換えに、いくらかの金高を口にしてみよう。

内緒の手段を使ってやってみよう、

俺の目論見を実行に移そう——

これ以上、ぐずぐずするつもりはない。

(2)

聖職者の長がいるといいのだが……。

その人のところへゆこう。

行つて俺の望みを伝えよう。

きつと奴らを嬉しがらせるに違いない。

俺を喜ばせようと、金を出そうと言ひ出したら、

金のことを諦めるつもりはないからな。

奴らの貪欲さを目覚めさせておいて、

俺の先生の所へ連れて行こう。

(3)

やあ、聖職者の皆さん、いらつしやいますな！

新しい報せをあなた方にお伝えしようと思ってきました。

もしも、わたしの望みに従うつもりがおありなら、

わたしの先生のイエスをあなた方に売り渡しましょう——

奴の望みと目的を無しにするためです。

なぜなら、奴の掟に従うことは、もうしたくないのです。

幾らにするとわたしが言い出すまで、ちよつとお待ち下さい。

それが決つたら、わたしの先生のイエスを縛り首にし、八つ裂きにしてやりましょう。

(4)

ガマリエル やあ、ユダよ、歓迎だ、もうお前はわれわれの友達だ！

さあ、皆さん、この方の手を取って——仲間に加えましょう。

あなたにお金を用立ててもやるし、お貸しもしましょう。

めどが立たずに口争いになつても、お味方になりましょう。

(5)

リュウヴァン ユダよ、お前の先生と引き換えに、

さて、何を支払つてやろうかな？

左百五十二

お前に下す銀貨も用意してあるし、わらわれの意見も一致している——

支払いを遅らせることなどしないから、

一声かけてくれれば、この場にうず高く積もう。

(6)

ユダ 金はここへ積んでください。

そうすれば、知つてゐることはお話ししましょう。

古い言葉で言われているのを、前に聞いたことがあります――

「金は商人を作る」とね。

(7)

リュウヴァン さあ、ここに光り輝く銀貨三十枚がある。

その袋の中に、急いでしまい込め。

それが終わったら、後は、今夜、お前の先生を捕まえることだけだ。

その袋と一緒にわれわれの友情のすべでも手に取れ。

(8)

ユダ あなた方は売買の道理をわきまえていらっしやる大商人ですな！

この取引きをあなた方と結びましょう。

奴をぶちのめせ！ どうぞ好きなように振舞ってください。

お金だけは手放すつもりは全然ありません。

(9)

リヨン さて、この取引はすっかりすんだ。

双方どちらも元に戻れない。

しかし、ユダよ、急いでわれわれに教えてくれなくてはこまる――

どのような手段を使って奴を捕まえたらいいか？

リュウヴァン そのとおりだ、奴を見たこともない人がたくさんいる。

それなのに、奴のところへわれわれと一緒に人を向けようとしている。

それゆえ、何かの印によって、当の本人だと分からなくてはならないし、

その印を、われわれの間だけの内緒にしておかなくてはならない。

(11)

リヨン そのとおりだ、どのようなものであれ、その印に気をつけていなくてはならない。

着ているものことだが、誰が弟子やら先生やら区別がつかぬこともあるぞ――

もしも、お前たちが全部同じものを着ていたら見分けがつかん！

百五十三

そうになったら、われわれの目論見は失敗するかもしれない。

645

(12)

ユダ 皆さん、その件に関しては、お疑いなく――

わたしがうまく決めておきますので、あなた方が失敗することはないでしょう。

皆さんが奴の回りを取り囲んだ時に

わたしが接吻する男を捕まえてください。

(13)

さあて、先生の所へ帰らなくてはなりません。

650

皆さん、疑ってはいけません、この件に関してはすべてが確かに決りましたよ。

ガマリエル ユダよ、さようなら、われらが友よ、

お前の労苦を十分に認めてやるからな。

(14)

ユダ さあて、人目を忍んで行って、先生をもう一度捜し出し、

俺さえ見たこともないような顔を試してみせよう。

俺は奴を売って、悲しみと痛みへ追いやってしまったので

奴が悲嘆にくれるのは確かだ。

〔ここで、ユダは弟子たちの間にこっそり忍び込む。〕

(15)

アンナス 皆の者、見ろ、われわれの意向の一部がかなった――

イエスを捕らえるために、もう備えをしなくてはならぬ、

巧みに多数の人数を参加させねば、

危険を冒して戦うような我慢強い奴らを。

(16)

ガマリエル めいめいをそれぞれの分遣隊に組ませよ。

かがり火と、手提げランプと、たいまつに火をつけ、

今夜こそ、用意を整えて奴のいる場所へ向かうぞ、まさかりと、だんびらに刀を携えて。

(17)

カヤパ もはや遅れをとることなく、

めいめいの者をそれぞれの位置につけ、用意を整え、

この件に関しては人目に立たぬように命令を下せ、

今日のこの夜に、すべてをすませるように。

〔ここで、主教たちは持ち場に散り、めいめいは手振りて別れを告げ、部下たちを部隊ごとに、それぞれの位置につけさせ、キリスト捕縛の用意を整える。直ぐに場面はキリストが座っている所になり、弟子たちがテーブルを分に従って囲んでいる。〕 左百五十三

(1)

イエス 兄弟たち、わたしたちの前に据え置かれたこの羊は

わたしたちが皆、今晚食べるものだ。

わたしの父がモーゼとアロンに命じられた、

イスラエルの子供たちとエジプトと一緒にいた時にだ。

(2)

おいしいパンと一緒に羊を食べ終わった、
にがいクローバーとも一緒に。

そして、両足を持って羊の頭を手取るのだ、
どのような場合でも、その二人がしたように。

(3)

そして、二人が立ったのと同じように、わたしたちも羊の前に立つのだ。

そして、レニユウ産の亜麻布を腰に巻き、

足に靴を履き、手に錫杖を持ち、

われわれが食べているように、二人も急いで食べた。

このような形式がなくなっても、もう一つの新たな形式は続くだろう――

あなたたちは頭であるわたしの体の一部となるのだ。

このことは一つの神秘によって、あなたがたに示されるであろう、
パンの形のうちに込められる、わたしの肉と血の神秘によって。

(4)

そして、わたしは心に愛情を強くもち、

わたし自身の過ぎ越しのお膳を囲みたいとひたすら望んできた。

わたしが自分の受難をこうむる前にあなたたちに混じって食べるのだ。

このように言うのも、わたしたちが一緒に囲むのは、このお膳が最後だ。

過ぎ越しの食卓で生け贄の羊を食べるのに、

百五十四(Q帖) 690

古い掟では、羊が一つの犠牲として使われた。

それと同じように、新たに犠牲となる新しい羊はこのわたしだ。

犠牲のために大変な代価が支払われることになるだろう。

〔ここで、イエスは聖餐用の薄いパンを取り、天を見上げ、父へ語りかける。〕

(5)

そのために、永遠である天の父に向かって、

感謝と敬意を捧げます。

695

神性に関しては、あなたとは対等ですが、

わたしには人間性がありますので、より低い位置にあります。

それゆえ、一人の人間として神性を崇めます。

この神秘を明らかにしてくれる父に感謝します——

父よ、あなたの力によって、また、わたしが祝福することで、

700

パンであったものから、わたしの体が造られました。

〔ここで、弟子たちに向かって、言葉を続ける。〕

(6)

兄弟たちよ、繰り返されるこれらの言葉の力によって、あなたたちにはパンに見えるこのものが

わたしの肉と血そのものとして造られたのだ。

このことを、救われたいと思う者は信じなくてはならない。

(7)

そして、古い掟にあるように——もつとも、これは戒律として教えられたのだが、むごいエジプト王の力を無効にさせるために、この羊を食べるようにと。

そのように、あなた方の魂の敵を破滅させるために、この事が続けられるだろう、地の果てまで、あなたたちの過ぎ越しの羊の代わりとして。

(8)

なぜなら、ここにいるのは罪の汚点が一つもない小羊そのものである。

これについては、洗礼者ヨハネが預言している——

この預言の冒頭で、

ヨハネは言った、「コノ神ノ小羊ヲ見ヨ」と。

(9)

そして、この小羊をどのように食べるかを教えておこう、

古い掟が明細に記しているのとまったく同じ形で

わたしが靈的な解釈によって明らかにしたように。

それゆえ、わたしが言うことにたいして、よいか、あなたたちの意思で応えてくれ。

(10)

にがいパンと一緒に、このパンを食べてはいけない。

左百五十四

言いかえれば、憎しみとねたみという憎悪をもって、このパンを食べてはいけない。

その代わりに、愛と思いやりというおいしいパンと一緒に食べなさい——

720

そうすることで、あなたたちの魂はこのほか強くするはずだ。

(11)

そして、このパンをにがいクローバと一緒に食べなくてはならない——

これが表す意味は、もしも人が罪深い性向にあれば、

この世で罪深い生き方をしてきたことになる。

それゆえ、心の中に深い悔恨を持つことになるだろう。

(12)

同様に、足つきの頭を食べなくてはならない。

頭によって、わたしの神性を理解しなくてはならない。

足によって、わたしの人間性を解釈しなさい。

この二つのものを共に受けなければならぬ。

(13)

わたしがあなた方に与えるこの汚点の無い小羊は

神性だけがあるのではない。

神性も人間性も同時にあることを信じなくてはならない。

そのように、足つきの頭を、一人一人が受けなければならぬ。

(14)

この小羊を食べきれずに、もし幾らかでも残ったのなら、

清い焔に投げ込み、焼くべきである――

このことが表す意味は、これらすべてのことが少しも理解できないのならば、あなたの信仰を神に預けなさい。そうすれば、破滅することはありません。

(15)

しっかり締めるように命じられたレニユの亜麻布帯は

清潔と貞節の帯にならねばなりません。

他の言いかたをすれば、言葉と考えと行いに節度を保つことで、すべての淫らな生活は捨て、そこから逃げ出してしまふことだ。

(16)

そして、足の上に履く靴は

高潔な生き方の实例に他ならない。

あなた方よりも以前にいた、あなた方の姿かたちをした父たちは

これらの靴を履いて、わたしの足跡について歩かなくてはならないだろう。

(17)

そして、手に握るであろう錫杖は

百五十五

他の人たちに教える实例に他ならない。

しっかりと手に握って、大胆であるように、

一人残らずわたしの掟を説教するために。

(18)

また、この過ぎ越しの小羊を急いで食べなくてはならない——

750

このことこそが、教えが伝える意味そのものだ。

いつなるときも、用意していなくてはならない、

わたしの掟を実現させるためには。

(19)

なぜなら、今日去ることになっても、あなた方には確信がいかないだろう、

明日になれば去るものかどうかも。

755

それゆえ、いつでも急いで懸命に仕事をしなさい、

わたしの掟を守るために、それを疑う必要はない。

(20)

これで、すっかりあなたたちに教えた、

わたしの貴重な体である過ぎ越しの小羊の食べ方を。

これから、天使の食べ物を皆に食べさせてあげよう。

それゆえ、一人ずつ出てきて、これを受けなさい。

(21)

ペテロ 主よ、この聖なる食べ物を受ける時には

何がしかるべき方法なのか、わたしの理解力を超えています。

なぜなら、誰も自分自身の実体を持つことができません——

それを受けるには、あまりにも大きい崇敬の念を持つからです。

(22)

なぜなら、主よ、これ以上においしい食べ物をわたしたちが戴くことはできません、

あなたご自身の貴重な体より他には。

それゆえ、言葉と思いと行いにおいて犯している罪に対して、

主よ、深い悔恨をもって、あなたの慈しみを求めます。

(ここで、主はその体であるパンを弟子たちに与える時、ユダを除いて、それぞれに言

う。』

(23)

これはわたしの体、肉と血だ。

わたしはあなたの方のために十字架の上で死ぬことになる。

〔ここで、ユダが弟子たちの最後に来る。〕

(24)

ユダよ、手に入れようとしている物を手に取るように勧めよう。

ユダ 主よ、わたしはあなたの体を見捨てません。

(25)

イエス わたしの体をあなたに拒むつもりはない。

それについて自分が大胆にも口にする事になったら、

それがあなたの破滅の原因となるだろう。

前もって、今、そのことを警告しておく。

〔ここで、ユダはパンを受けると、前と同じ場所に座る。〕

(26)

あなた方の一人がわたしを裏切った。

わたしの食卓でわたしと一緒に食べた者だ。

その者のためにはその方が良かっただろうに、
産まれてこず、親がもうけなかつた方が。「弟子たちは互いに見つめ合う。」

(27)

ペテロ 主よ、それはわたしではありません！ 「弟子のすべてが同じ様に言う。」

ユダ 主よ、もしかして、それはわたしですか？

イエス ユダよ、その言葉をお前が口にするのか？

友であつたわたしをお前は売つたのだ。

その結果、お前は破滅の原因を自ら呼び込んだのだ。

「ここで、ユダはユダヤ人の所へ再び行く。ユダを迎えるユダヤ人が次の台詞を言うのもいい。」

(28)

悪魔 ああ、ああ、わが愛しのユダよ、

百五十六 (R帖)

俺にとつてお前は産まれた者のうちで一番の奴だ。

地獄の苦痛のうちに、王冠をかぶせてやろう。

それについては、とこしえに安心させてやる。

(29)

お前は自分の先生を売り、食べもした。

奴を地獄へなんとか連れて来れたらよかったと思うが、
それだと、悲しんだり、嘆き声など上げたりされかねないから、
地獄に売り渡す俺に向かって地獄中が声を上げて泣き叫ぶだろう。

(30)

お前が始めた事を急いでやりとげろ。

俺はお前を迎える用意を調えるために地獄へゆかなくてはならない。
直ぐに住みなれるはずの所へ来なくてはならない。

焔と悪臭の中で、俺のそばに座らせてやる。「場面が変わる。」

(1)

イエス 今や、このわたしが神の御子であることが明白になり、

子の中の神の存在も明らかになった。

ユダが恵みを失ったのは気の毒だ――

そのせいで、ユダは悲しみと嘆きに向うことになるだろう。

(2)

しかし、今や、わたしの受難の思い出として、

天の統治においてわたしと役を分け持つために、

あなたがたは心をくだいて、わたしの血を飲まなくてはならない——
その血は人間の愛のために流されるのだ。

(3)

新しい契約であるこの聖杯を取り、

この事を永遠に心に留めておくように。

心からの気持ちを込め、できる限りしばしば、これを行いなさい。

そうすることで、悪魔からあなたたちは守られることになる。

〔ここで、弟子たちが来て、血を受ける。〕

左百五十六

これはわたしの血、人間の罪のために

わたしの心臓から流れることになる。

〔ここで、弟子たちはもう一度、前と同じ場所に座る。〕

(4)

兄弟たち、わたしのしたことに注意を向けなさい、

わたしの肉と血をあなた方に食べさせた。

人を愛そうとして、これ以上のことはできない、

人を愛するために死ぬこと以上に。

(5)

それゆえ、ペテロとあなたたちのそれぞれは
 わたしを愛するなら、わたしの子羊を養いなさい。
 教えを忘れて道を間違えないように、
 いつもしっかりと心を養うようにしなさい。

(6)

あなたたちにそうしたように、わたしの体を与えなさい。
 わたしの言葉によって、そのことは聖とされるだろう。
 そして、このように、わたしはいつまでもあなたたちと共にいる、
 世の果てまで。

(7)

わたしの体を食べ、わたしの血を飲む人は
 神であり人間であるわたしを受け入れるのだ。
 そうすることで、狂った悪魔から身を守ることができる――
 その人をわたしは死にぎわに捨てることは決してしない。

(8)

もしもわたしの体も食べず、わたしの血も飲まない人は誰でも、
 そのような人の一生は無だ。

自分のためにいいことなので、このことを肝に銘じておき、

一人残らず人は自分を善く救うように。

〔ここで、イエスは水を張ったたらいを取り、タオルを肩に掛けるとペテロの前に膝をつく。〕

(9)

イエス もう一つの見本を示しておこう。

百五十七

どのように隣人愛に生きるのかを。

言葉少なく、ここへ座り、

わたしのするがままにさせなさい。

〔ここで、たらいとタオルを取る。〕

(10)

ペテロ 主よ、わたしに何をしようとしているのですか！

このような奉仕を受けることを断固として拒否します！

わたしの両足を洗うことなどさせません！

あなたからそのような奉仕を受ける価値がわたしにはありません。

(11)

イエス ペテロよ、わたしがしようとしている奉仕のすべてを

もし断わるのであれば、

わたしとのいかなる関わりをも絶つこととなり、

わたしの恵みに至ることは決してない。

ペテロ 主よ、その件に関しては無視できませんので

主の掟を守りましょう。

お願いします、頭も手も洗ってください——

お望みどおりにわたしたちはなんでもします！

〔ここで、イエスは順繰りに弟子たちの足を洗い、タオルで拭き、優しく接吻した後で、腰を下ろす。〕

(12)

イエス 友よ、このように足を洗うことを広めなさい。

皆はわたしのことを「主」や「先生」と呼んでいる。

確かに、わたしはそのとおりの者だ。

しかし、皆の足を洗ったのだ。

このことを覚えておくのだ。

お互いに他の人にしてあげるのだ。

へりくだる心を持って、平等に服従を遂げるのだ、

左百五十七

あなた方のそれぞれが互いに兄弟であるからだ。

(13)

皆よ、わたしをこれ以上に喜ばせてくれるものは何もない——
人が送る一生のうちで

隣人愛に生きる人たちの一生ほど喜ばしいものはない。

天国において、そのむくいをしてあげよう。

わたしが事を前に進める時が来た、

預言を実現させるためだ。

今夜、わたしのためを思って心配してくれ、

多くの人々がわたしについて泣いてくれるだろう。

(14)

なぜなら、預言者たちがわたしについて話している——

わたしが受ける死について語っている。

その死からわたしは逃げるつもりはない。

代わりに、人間の罪のために償いをするつもりだ。

(15)

今夜、わたしはあなたたちから連れ去られ、

あなたたちの方は、恐れから、わたしから逃げ出してしまふだろう。
あなたたちの名を呼んでも、誰もあえて口をきこうとはせず、
何人かはわたしを見捨てる。

(16)

あなたたちのためにわたしは死に、再び立ち上がる。
三日目にわたしの姿を見るだろう、
あなたたちより前に行つて、ガリラヤの地を
歩いている姿を。

(17)

ペテロ 主よ、わたしは決してあなたを見捨てません！
どんな危険な日にあつても、あなたから逃げ出すことはしません。
主よ、むしろ死んだ方がましです、
あなたを一度でも見捨てるくらいなら！

(18)

イエス ペテロよ、もっと知っておかなくてはならない、
よいか、その約束をあなたは守れない。
なぜなら、鶏が二度鳴く前に

三回も、わたしを見捨てるはずだ。

(19)

しかし、わたしにとって愛しい友達のすべてよ、
ゆこう、時が近づいた。

この場所にこれ以上留まっていることはできない、
なぜなら、ベタニアへ歩いて行かなくてはならないからだ。

時は来た、日は近づいた。

わたしの死に向かって急がなくてはならない。

さあ、ペテロ、仲間の皆を、陽気にさせてあげなさい――

わたしの肉体は恐怖に打ち震えている。

〔ここで、イエスはベタニアへ向かう。弟子たちは悲しそうな面持ちで付き従う。〕

〔ここに、「最後の晩餐」が終わり、第二十八番演目の「裏切り」へ続く。〕